

## イメージを伝え合いながら、思考力・判断力・表現力を高め合う子ども

### ー 中学1年「テーマに合うリズム・音楽づくり」の実践から ー

#### 1. 授業の構想

音楽科では、思考力とは感じる・イメージする・理解する力であり、判断力とは選ぶ・工夫する力であり、表現力とは生かそうとする・生かす力と考えている。それぞれを積み上げていくことにより1つの音楽が生まれる。今回取りあげた『創作』では、思考力と判断力がからみ合いながら、より豊かな表現をつくり上げ、結果的に、表現力も高まっていくと考える。その過程においては、自由な発想を大切に、生徒一人一人がイメージを膨らませ、自分なりの意味や意図をもって試行錯誤しながら表現を工夫し、音を音楽へ、一つの形あるものへと練り上げ、表現していけるようにすることが大切である。

さらに、友達との意見交換から新たな気づきが生まれたり、聴き合う活動を通して、お互いの思いや意図を共有したり共感したりするなど、他の生徒とのかかわりも、思考力や判断力、表現力を育成するために大きな意味を持っている。

本学級は、男子17名、女子18名、合計35名の学級である。歌唱では、中学校という新しい生活に早く慣れたいという気持ちから、入学当初から校歌を早く覚えようとする姿や仲間と共に意欲的に歌おうとする姿が見られた。また、多くの生徒が11月に開催する校内音楽会に向け、クラス一致団結して歌っていききたいという気持ちをすでにもっている。また、器楽の学習においても、中学校で始めたアルトリコーダーの、ソプラノリコーダーより深みのある音色に多くの生徒が興味を示すなど、音楽の学習に意欲的に取り組んでいる。しかし発声時や歌唱時に声量や声域を競ってみる、運指に夢中になるなど、自分と、他者との声や音色を聴き合いながら、合わせて演奏しようとする意識は、まだ十分には育っていない。しかし、鑑賞においては、音を聴いてすぐに情景などを発想し、そのイメージ力や発想が豊かである。また、発想がもてたところで改めて音をじっくり聴かせることにより、さらに広がりを見せたり、音素材や音そのものの音色追求に耳を傾けたりする姿がとらえられた。

このような生徒の実態から、豊かなイメージ力を生かし、さらにイメージ力を伸ばす活動を多く取り入れた学習や、自分と他者との声質や音色、表現を聴き合うことに重点を置いた活動をより多く設定していくことで、音楽科で願う豊かな学びの姿に近づかせたいと考えた。

本題材では、創作するにあたって発想した言葉の抑揚やリズムなどの特徴を感じ取り、その特徴と音楽を形づくっている要素とを関わらせて簡単なメロディーを創らせる。しかし、いきなりメロディーを創るのは難しいと考えるため、導入では、共通のイメージをもたせるために教師がテーマを与えそれを基に仲間とイメージを膨らませ、イメージする言葉を友だちと交替で表現する「会話」をする場を設定する。「会話」という形をとることで言葉が出やすくなったり、流れに合ったリズムが生まれやすくなったりすると考えたからである。さらに、その「会話」を拍の流れの流れてラップのように行うことで、その言葉の強弱・アクセント・リズムなどの音楽要素を、仲間と共有しながら感じることもできる。

次に、そのリズムに小学校高学年で学習している和音を関連付け、ベース音を重ねる活動を取り入れる。そして最後に、リズムとベース音をもとにメロディーを創る場を設定した。このことにより、子ども達のメロディー創りへの抵抗が少なくなるとともに、より豊かな旋律ができるようになることを期待したのである。

また、友だちとのかかわりも大切にして、学習を進めていく。具体的には、リズムとベース音を創作する活動はペアやグループ活動とし、メロディー創作は、一人で行うこととする。創作は、基本的には個人的な活動だと考えているが、友だちとかわり合いながら創作することで、創作への抵抗を少なくすると共に、互いのよさを認め合い、刺激し合いながら、より深く思考・判断する経験をすることができると考えた。そして、最後の旋律創作は、一人で行うことにすることで、自分の思いを十分に表現に生かすこともできるようにする。

この取り組みによって、音楽を自分で創りあげたという達成感や"音をつなげる" "人をつなげる"こと

の喜びを感じ、作曲することへの楽しみ・意欲につながってほしいと願っている。加えて、本題材の取り組みは、他の音楽の領域の活動においても、メロディーの動きやリズム、音の重なりにより生まれてくる音の世界をより豊かに感じ、表現しようとする姿につながっていくことを期待している。

## 2. 題材計画

### (1) 活動展開計画（全3時間）

次	主な学習活動・内容		具体的な学習計画
1	テーマを元にイメージをやりとりし、リズムをつくってみよう	1	テーマをイメージし、グループで共有し合いながら、音楽要素〈mf f mp p < > など〉を使ってリズム打ちをする。
2	テーマのリズムにベース音をつけよう	2	テーマをイメージしたリズムにベースラインを付ける。そのベースに合った音を重ねる。
3	リズムやベース音を元に簡単な旋律をつくらう	3	今までのリズム・ベース音を生かして、ARまたはキーボードなどの楽器を使って簡単な旋律をつくり、発表する。

### (2) 評価計画

次	時	関心・意欲・態度	感受・工夫	表現の技能	音楽科における 思考力・判断力・表現力
1	1	テーマからイメージする言葉を発言している。かつリズムに興味を示している。	グループ内でのイメージをお互いに受けとめようとしている。	拍の流れを感じながら、言葉にリズムをつけて表現している。	イメージを伝え合い、試行錯誤しながら言葉に合ったリズムを見つけている。
2	2	積極的にグループ内で音選びをしている。	グループ内でのイメージをお互いに受けとめようとしている。	ベース音と言葉とリズムに合わせて拍な流れによって表現している。	試行錯誤しながら言葉に合わせてベース音を選んでいる。
3	3	意欲的に簡単な旋律づくりをしている。他の仲間の音を聴く姿勢が見られる。	リズムや言葉やベース音に合うように旋律を工夫して創っている。	ベース音と重ねて創った簡単な旋律を演奏している。	言葉の高低やベース音を基に試行錯誤しながら言葉に合った音に簡単な旋律をつけている。

※「鑑賞の能力」については、評価規準は設定しない。

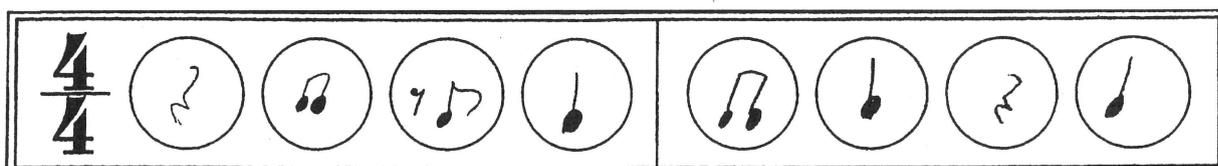
## 3. 授業の実際

第1次では、テーマを基に友だちと共有し合いながら、自由な発想で言葉にあったリズムを創作する。

第2次では、第1次に出来上がった作品にベース音を加えていく。その際、言葉や内容（意味）に合った音選びをさせるのだが、できあがったベース音を聴いてもこれからできあがるであろうメロディーにつながりにくいため、第1次より充実感が薄いと感じたようだ。第3次においては、第2次に出来上がった作品をもとに個々に簡単な旋律をつくらせ、ここから個々の活動も取り上げ、今まで人とかがわりながらより自由な発想で辿った音に1つのフレーズまたは盛り上がりなどを感じ取ることを望んだ。しかし、イメージもって適当に音を並べることができたが、意図的にテーマに合うような盛り上がりを生み出すには、難しかった。

この創作は今後の作曲に向けての第一歩と考えるので、自分の思いや意図を音につなげるきっかけとなることを望む。

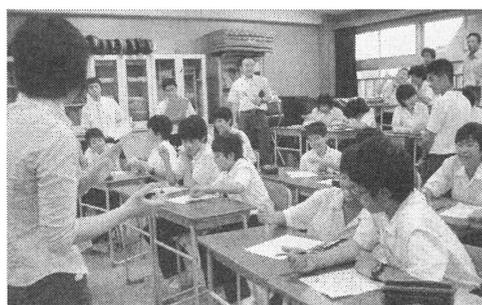
ここで、特にきっかけとなった第1次では、まず、基本となるリズムと自分のリズムと他者のリズムを感じながら、他と合わせることに意識をもたせ、合わせたいという意欲を高めていくため、これまでの授業で行っている4分の4拍子というルールのもと個々に2小節8拍で無操作にリズムづくりしたものを全員で同時に手拍子により合わせたり、リズムリレーでつなげたりして思い出させた。



あるテーマをもとに自由な発想で言葉とリズムを創作し、4分の4拍子16拍（4小節）の作品をつくる。普段より、4小節単位のフレーズの歌をとりあげ、慣れ親しんでいるため、基本となる拍子にスムーズなリズム打ちができるようこのように設定した。そして本時の学習の目標『イメージと音楽要素を使ってリズムづくりに挑戦！！』を提示した。ここでどんな音楽要素を知っているか確かめたところ生徒から出たのは、mf f mp p < > などである。自由な発想と他者の発想を認め合う雰囲気大切にしながら、ペアでのリズム創りを実際に拍の流れにのりながらやって見せて確認した後、グループ活動とした。ペアでのテーマは、生徒が身近で鮮明に記憶にある晩ごはんと朝ごはんとした。このテーマを基にペアで「会話」をする。その際、その「会話（言葉）」から連想される、自分のイメージに合ったリズムを1人1人が考え、「会話」の様に自分の言葉のリズムを相手に伝え、それを基に相手がまた言葉にリズムをつけて答える。ここでの生徒の様子は、とても楽しそうに、与えられた4拍の中に自分がテーマから連想した言葉に合うリズムを打ち、何回も試行錯誤を繰り返しながら、意欲的に取り組んでいた。また、それを五線譜にメモ書きしながら創作する姿が見られた。

～テーマをもとに自由な発想でイメージした生徒の記録～

ペアでの言葉とリズムによる「会話」



[テーマ] 晩ごはんと朝ごはん

お題①= 晩ご飯と朝ごはん

(A) 晩ご飯 しょうがやきたべたい!!	(B) えーうそ!!	(A) 朝ごはん Xロパン食べたの	(B) 11-70

お題①= 晩ご飯と朝ごはん

(A) 晩ごはん ししゅも	(B) へー、そうなんだ	(A) 朝はメロン	(B) どんだけ〜

お題①= 晩ごはん

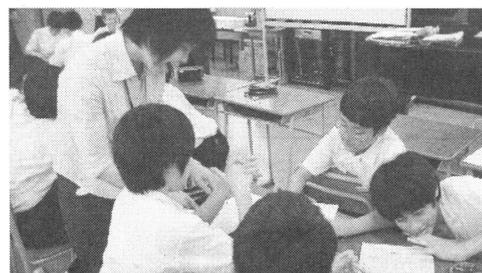
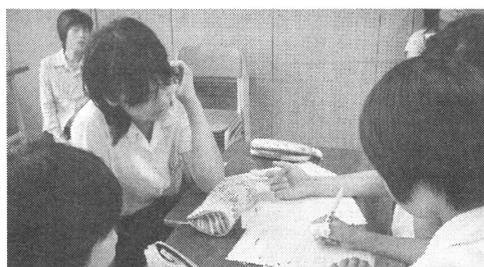
(A) じゃがいもどうぶ	(B) おいしうたね	(A) パンとサラダ	(B) おなめがすいた

お題①= 晩ご飯と朝ごはん

(A) 飛魚〜	(B) 食べたい〜	(A) オムレツ〜	(B) 食わせろ〜

そして、次に4人グループでのテーマは、「最近気になること」にした。テーマを基に会話する相手が増えたことによって、盛り上がりや強弱がつき、言葉にストーリー性が生まれた。より豊かなイメージでリズムが生まれ、自然と感情と共に音の高低を加え、練習する姿が見られた。

4人グループでの言葉とリズムによる会話



[テーマ] 最近気になること

お題①=最近、気になること

Musical notation for the first staff with lyrics: 好きな人いる? 私はいほ、おれはいほ、うさも

お題②=気になること

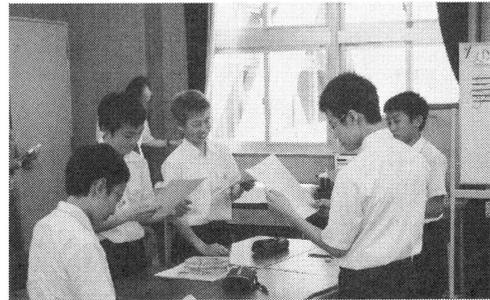
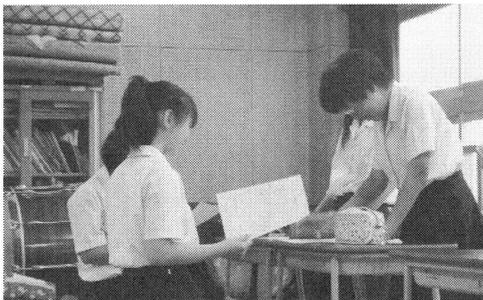
Musical notation for the second staff with lyrics: はんにゃ、我が家、私はオーディリー、...

Musical notation for the third staff with lyrics: かわいいない、あなただけ、あなただけ、あなただけ

Musical notation for the fourth staff with lyrics: ゆてい、ハスタイル、ひていさね、I'm don't interesting

発表時に向けての練習では、ストーリー性が生まれたり、豊富なリズム感となり、ストーリーの内容にまとめ(完結)を感じると共により表情良く発表し合う姿が見られた。

各グループ発表



この時間の終了後生徒たちは、次のような感想を書いた。

今回の経験をしてみての生徒の感想

[おもしろさ・意欲]

Handwritten student feedback in speech bubbles:

- 「日のかわも、歌にしたら楽しいですね。」
- 「すごく楽しくて、本当にはなしているようでした? 楽しかったです。」
- 「リズムの中に、言葉をつけるとおもしろい。かんたんなおもしろいものができ、たのしかったです。」
- 「いつも会話にリズムをつけるのはこんなに楽しかったのか!!、てくらく楽しかったです。」
- 「女がおもしろくて、単語なやつがおもしろいのがかいて面白い...と思いました。リズムによる会話がおもしろくなるのが、改めて知れました。」
- 「楽しかったです。あまり「P」が面白かったの、次は気をつけたい。」
- 「リズムをつくる、おもしろくつくるのができました。もと、おもしろいものをつくる、いいですね。」
- 「普段、普通にしゃべる言葉を、こうしてリズムにのせてみると、しゃべる言葉が、もっと力動的(ゴリッ)に感じました。音楽の力、不思議だと思いは。」

→今回の経験から、楽しさ・簡単さ・おもしろさ・魅力を感じとり、さらに創作意欲をわかせている。

[新たな発見]

$\frac{4}{4}$ で話しあうのはとても難しかったけど制限されている分、話せると楽しい。

→ 4拍と制限されているからこそ瞬時にリズムが生まれ、次へとつなげようとする。

普通の会話からリズムが作れるとは知らなかった。

→ 言葉をリズムに変える初めての出会いである。

[工夫したこと]

同じ字数でも、リズムを変えたり、違う感じにできました。

何にでもリズムがあって同じ言葉でもちがうふんいきになることが分かっておもしろかったです。

創作リズムはど  
言葉にリズムをつけるのは普段せらないことなので、おもしろかったです。  
リズムを合わせるために、字数を変えたりなど、工夫が必要だと思いました。

4拍におさめるのが、私の区切る量が多すぎて難しくなりました。

→ 4拍内で色々リズムを変え試行錯誤しながら、言葉の内容・またはイメージに合うリズムを創ろうとしている。

[友だちと協力したこと]

みんなでいろいろなことをつくりオリジナルの世界ができてよかったです。

→ 個人の意見もとりいれながら、みんなの作品として1つのものに仕上げようとした成果である。

習っていないリズムも楽しくなからずして、自然と使えたと感じました。

→ 4拍内でおさめるリズムの種類を意識し、言葉をリズムに転換しようとしている。

[難しさ]

難しかったです。4拍に決めるやると3文字や5文字、言葉が短い。

言葉にリズムをつけるのは難しいと思いました。ふたたび、7個の言葉にもリズムがあり、違うリズムに合わせようとすると難しいと思いました。

日常言葉にしている会話をリズムに乗せると、意外に難しかったです。作曲者も大変だなあと思いました。

→ 自分の言葉だけではなく友だちの言葉とのやりとりの中で4拍におさめていく作業の難しさを感じているが、これは正に作曲する中での試行錯誤と似ている。

これらの感想からも分かるように、リズム打ちからことばに合わせるようにしたり、または、ことばに合うリズムをイメージしたりする創作活動では、会話のように人とかかわることによって他のリズムが生まれたり、音の高低感が生まれたり創作活動そのものが創作意欲をかきたて、瞬時にイメージで直感を刺激し合い1つの作品としてまとまろうとしている。このやりとりが、後に作曲することへの楽しみ・意欲につながると考える。今後、人とかわりながら、旋律に言葉をまたは言葉にメロディーをつけ、ベース音をつけていくなど「創作」することへの意欲をさらにかきたてると考える。

#### 4. 成果と課題

会話形式で相手の生徒が拍をとってくれることで、拍の流れにのりやすくなった。その中で、2人の内の1人が手拍子で拍をとり、もう1人が言葉を言う姿を忘れないように五線譜にメモをする姿などが見られた。ここで、とても楽しく会話をしていたペアやリズムに工夫のあるペアなどいくつかのペアの「会話」を発表させた。聴いていた生徒たちは、友だちの表現をととても興味深く聴いていた。次に、4人グループでの「会話」発表に向け、リズム創りに取り組んだ。「会話」がより長くなったり、単調なリズムで表現していた生徒がリズムに変化をつけたり、「会話」の内容がストーリー化されたり、完結な終わり方になったり、強弱をつけたりと変化に富んでいた。このことは、4人での「会話」に会話する相手が増えたことや「会話」の小節が長くなったことや2人での発表を聴いてリズム創りへのヒントを得たことなどが考えられる。また、どのグループも発表の場を設定し、発表に向けてより意欲的に取り組めたことも原因だと考えられる。さらに、五線譜を使ってメモをする時には、自分の言っている言葉の高低に耳を傾け、それを五線譜を使って表そうとする生徒がいた。

あるテーマをもとに作品を創り上げるきっかけとして、第1次でリズムからとりあげ、第2次でベース音を加えたのは、いきなりメロディー創りは難しいと考えたからだが、第2次のベース音付け加えは、充実感を感じていないようだった。選択音を厳選しすぎたと考える。第3次のメロディー創りでは、個々での作業だったが、今までの友だちとのかかわりで創り上げたという意識をもつことができたのか、または、今までの工程が「創作」するにあたってよかったのかは、今後探っていきたい。

第2次・第3次は、生徒が自分のイメージに合う音楽を創るのに時間がかかると考えていたが、やはり、かなり難しかった。自分の創った音楽を楽譜に表現して確かめる時の困難さも見られた。また、また予期していた通り、例え音またはいくつかの選択肢を提示するなど支援をする際、生徒たちは、その例え音や選択肢音の厳選が難しく、また、自分のイメージする音を歌声としてまたは楽器を使って音を発する時の困難さも見え出してきた。



今回の実践をもとに、友だちと試行錯誤する姿やその過程を大切にしながら、生涯音楽づくりに向かうような研究を積み重ねて行きたい。  
(文責 岩田 佳子)